

令和2年5月27日

在学生の皆様
保護者の皆様

名古屋文理大学
名古屋文理大学短期大学部
学長 景山 節

本学での対面授業の再開について

令和2年度の前期授業については、コロナウィルス感染症の拡大と緊急事態宣言の発令により、大学・短大ともに4月第2週より学生の登校を停止するとともに、全授業について遠隔授業として進めてきました。前期15週の授業は6月中旬に約半分の6~7週まで終了の予定です。このたびの緊急事態宣言の解除により、大学が6月4日、短大が6月1日より、学生の出校により通常の対面授業を全面的に開始します。

学生の教育は、今後の日本を担う人材を育成するために、大学と短大の担う最大の使命です。日々の授業はその根幹をなすものであり、その積み重ねにより高度な知識や技術をもった若者が育っていくことになります。知識や技術の修得については、遠隔授業でももちろん可能です。今昔にかかわらず、勉強は教えてもらうものではなく、自分で教科書や参考書を見ながら自学自修をしたほうが身につくという考えがあります。教科書に書かれている内容を整理し、分からないところを調べるといった勉強の基本的なところは、遠隔授業のほうが、通学の時間がいらなくなる、考える時間が増えるなどにより時間の有効な活用ができ、知らないうちに学力がついているかも知れません。文字とおりの緊急事態でかつてない経験だったと思いますが、勉強するということについて考えることができたのなら、この2か月間は有意義な経験として残るものと信じています。

しかし、教育の最も重要な要素の一つに、教師に要点や重要なところを口頭で教えてもらう、実技を直接見たり指導してもらう、あるいは分からないところをその場で質問し議論するなど、面と向かった人と人とのやりとりを通じて学ぶことが多くあります。これは教育が人と人との関係、そこには単に教える、教えられる以外に、同意や協調、あるいは時には反発など、さまざまな人間関係あるいは人間形成の過程を繰り返しながら若者を育てていくからです。このことを、本学では人とのふれあい、交流を深める教育といった言い方をしていますが、若い時期には成長していくための人から与えられる多くの刺激が必要です。さらに本学は、栄養士養成施設から開学し、「食、栄養、情報」という三分野で若者を教育しています。高度な、また専門的な技術を教える必要があり、またこのことが本学を特徴づけるものとなっています。このため、授業の半分は実験・実習となっています。これらの授業については、直接の対面での技術指導が不可欠です。前期後半の対面授業では、特に実験・実習に関する徹底した指導をおこなうこととなります。

学生のみなさんは、6月より出校することになります。通学、授業で1日の大半の時間が費やされることとなります。コロナウィルスに自分が感染しない注意がまず必要です。家庭や学校以外への不要不急の外出はしない、三密は避けるといったことを徹底してください。皆さんの年代の若者は、感染しても発症しにくいとされています。これは知らないうちに保菌者になり、周りの人、すなわち家族や学校の教職員、あるいは友達に感染させる可能性があることとなります。学校での感染者が出たときは、状況により、クラス閉鎖や学科閉鎖などの対応を2週間はとる必要が出てきます。再度遠隔授業に戻るか、前期の終了が伸びることにもなります。そういった事態は、皆さんも教職員も、保護者の方も望むものではありません。

大学、短大ともに教職員と学生を合わせると1500名くらいです。人が集まることにより授業や休憩時間には三密がしやすい状況になります。このため、消毒液の配置、座席や休憩場所の制限、換気など、いろいろなことに細かい感染防止策を講じました。これらの対策は、ガイダンスですでに説明されていますが、これからも学生ポータルに個別に配信されるとともに、指導教員などにより説明されます。

感染防止を徹底し、実りある授業とともに、充実した学生生活を再開していきましょう。本学の教職員とともに、みなさんに会えるのを楽しみにしています。